

日本学術会議公開シンポジウム



AIによる法学へのアプローチ



主催：日本学術会議情報学委員会・ITの生む課題検討分科会

共催：国立情報学研究所、後援：情報処理学会

参加費無料

定員に達したため受付を終了しました。当日受付はありません。

日時：平成31年1月24日（木）13:30-18:00

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 神保町

千代田区神田錦町3-22 テラススクエア3F（都営三田線 神保町駅 A9 出口徒歩2分）

開催趣旨：人工知能が社会に実際に応用される時代が到来している。本シンポジウムでは、人工知能技術が法学に対してどのような応用がされてきたか、また、これからどのような応用がされつつあるのかを概観するとともに、法学から人工知能研究に対してどのようなニーズがあるかについて議論する。

プログラム：

13:30-13:40 開会の挨拶：本シンポジウムについて

喜連川 優（日本学術会議連携会員、国立情報学研究所長）

13:40-14:40 AIの法学への応用の歴史

新田 克己（国立情報学研究所特任教授、産業技術総合研究所招聘研究員）

14:40-15:40 AIの法学への応用研究の現状

佐藤 健（国立情報学研究所教授）

15:40-16:40 法学者からのAI技術導入についての期待

太田 勝造（東京大学大学院法学政治学研究科教授）

16:40-16:50 休憩

16:50-17:50 総合討論

（司会）高橋真理子（朝日新聞科学コーディネーター）

（パネリスト）太田 勝造、喜連川 優、佐藤 健、新田 克己、宮内 宏（弁護士、
宮内・水町IT法律事務所）

17:50-18:00 閉会の辞 東野 輝夫（日本学術会議会員、大阪大学大学院情報学研究科教授）

問い合わせ先：国立情報学研究所 佐藤 健 email: ksatoh@nii.ac.jp